



THE VINTAGE SCORE

HELL'S BELLS

ヘルズ・ベルズ

BRUFORD

ブラッフォード

変拍子がいりまくる

壮大で迫力のある

ブラッフォードの代表作

『ワン・オブ・ア・カインド』

▼VJ VJD-28052 CD-

BRUFORD



BY 久野耕一郎

「プログレ界最後のスーパー・グループ」として登場したUKは、ファースト・アルバム『愛国の四士』をリリースした後、分裂した。ジョン・ウェットンとエディ・ジョブソンはドラムにテリー・ボジオを加えたトリオとしてUKを存続させ、ビル・ブラッフォードとアラン・ホールズワースは、デイヴ・スチュワート、ジェフ・バーリンと組んでブラッフォードをスタートさせた。ビル、アランの脱退についてジョン・ウェットンは「2人はジャズの方角に進んだほうがいいのではないかと判断した」と語っているが、ウェットンの言う「ジャズ」とは、ボーカル中心のロック・サウンドと対比した意味での、インストゥルメンタリティを重視した音楽といったニュアンスを持つものだろう。実際、ビル・ブラッフォードが目指したのは、'78年に発表したソロ・アルバム『フィールズ・グッド・トゥ・ミー』で聴かせたサウンドを、よりバンド・アンサンブル的スタイルでまとめる方向だった。それが結実したのがブラッフォードのファースト・アルバムの『ワン・オブ・ア・カインド』である。

そのブラッフォード・サウンドをひとことで言うならば、ビル・ブラッフォードの変拍子感覚とデイヴ・スチュワートのハーモニー感覚の融合、ということになるだろう。もちろん、アラン・ホールズワースの類い稀なソロイストとしての力量、ジェフ・バーリンのジャズ、クラシック、ファンク、ブルースといった豊富なバック・グラウンドを生かしたベース・ワークの醸し出す躍動感なしには成立しないだろうが、基本的な骨組みはビルとデイヴによって構築されている。とりわけ、『ヘルズ・ベルズ』の子+音、『フェインディング・イン・コイルズ』の音、『雪のサハラ』の音といったリズムの持つダイナミズムを十分に生かしたデイヴのキーボード・プレイが最大のポイントとなっていると言えそうだ(ただし忘れてはいけないけど「フェインティン

グ・イン・コイルズ」や「雪のサハラ」そして「ワン・オブ・ア・カインド」等の作曲者はビルである)。

さて、デイヴのキーボード・プレイだが、これはもうカラフルかつ緻密、と言えよいだろうか。アコースティック・ピアノ、エレピ、オルガン、ミニムグ、プロフィット5等を駆使したキーボード・アレンジは、まさに真のマルチ・キーボード・ディストと呼ぶにふさわしい(……と、メッセージ・コーナー応募用紙のアンケート欄に書いてきた人がいたけど、君は正しい)。1曲中でもかなりのキーボードを重ねているのだが、展開に応じた機材の選び方、音色アレンジが実に巧みなので決して重すぎることがない。この辺の手法は、現在のスチュワート/ガスキン・ユニットの作品でさらに確立されたものとなっている。また、輪郭のくっきりした存在感のある音色しか使わないのも特徴で、特に変わった音でもないのに個性的に聴こえるのはそのためだろう(そういえばこのグループは全員、音色に存在感がある)。さらに、ナショナル・ヘルズ、ハットフィールド&ザ・ノース時代からの必殺ワザ、4度重ねを多用したカンタベリー・ボイスによるオーケストレーションはこの人の独壇場。今回のスコア曲「ヘルズ・ベルズ」や「ワン・オブ・ア・カインド」の後半のコード・ワーク等、研究してみると面白いだろう。ホールズワースの変態ソロに陰れてあまり目立たないが、「トラベルズ・ウィズ・マイセルフ」のシンセ・ソロ、「フェインディング・イン・コイルズ」のピアノ・ソロも味があってよい。特に後者はジャズっぽいけど全然ジャジーじゃないという彼のプレイの側面が聴ける。

ブラッフォードは'80年にライブ・アルバム『ザ・ブラッフォード・テープス』、最後のスタジオ盤『グラデュアリー・ゴーイング・トルネード』をリリースしているが、完成度の高さはファーストが勝る。

譜面の変拍子を恐れずトライしてみよう!

採譜・解説/三宅一徳



TOTAL SOUND

ブラッフォードはドラマーであるビル・ブラッフォードを中心に'79年に結成されたグループである。バンド名だけを見るとビルのソロ・アルバムのように見えるが、彼はこのプロジェクトを、パーマネント・グループとして発展させようと考えていたようだ。そのためか、この「ヘルズ・ベルズ」の収められたアルバム『ワン・オブ・ア・カインド』では、ビルのみが目立つことなく、4人のメンバーそれぞれが遺憾なくその個性を発揮している。そのメンバーとは、ビルの他にベースのジェフ・バーリン、ギターのアラン・ホールズワース、そしてキーボードのデヴィ・スチュワートと、いずれも強者揃い。このメンツならば、「ハノン」を演ろうが「ちょうちょ」を演ろうが、すべて変拍子バリバリ変態コード伴奏つきのドブログレになることが約束されてしまうという恐ろしいグループである。今回取りあげた曲、「ヘルズ・ベルズ」は、アルバム・トップに収められているだけあって、非常にポップな曲である(?)。

テーマの流れるような変拍子は[A]のパターン=子+音、[B]のパターン=子+音+音+音という2種類のリズム・パターンにより構成され

ており、一見複雑な感じだが、[A][B]それぞれトータルで罫拍子という流れを持っており(子+音+音+音、子+音+音+音)、罫でカウントを取れば、ギター・ソロの前まで小節ごとに変わる拍子を気にしなくてすむからラクになる……と思いきや、罫でカウントをとるほうがよほど難しい、と言うより不可能に近いので、各自が各小節をがんばるしかないようです。

CHECK POINT

使用されているシンセはミニムグ。テーマの部分はかなり厚い音に聴こえるが、ボーシングはそれほど厚いわけではなく、出音が太い音色のミニムグだからこそ出せる厚い音といえる。ディはこの部分でミニムグを2台使い、片方でメロディ・ライン、もう片方は2つのオシレーターを完全4度でハモるようにチューニングし、ハーモニー・ラインを弾いている。スコアではポリシンセ1台で片手で弾けるようにまとめて書いてある。シンセ・ベースもミニムグ。レゾナンスを効かしたこの音色はディが好んで使っている音だ。[A]から[C]にかけてピアノ・パートに音が書いてあるが、これは編集部の君が極秘に入手したディ・スチュワート直筆!のスケッチのとおり(レコードにこの音はない)。

ギターはほぼソロのみ。[C]のはびやかに、練習あるのみです。ベースも同様。ドラムはアクセントをしっかりとらえてメリハリのある演奏を心がけてください。

[C]はタイトにはぎれ良く、5小節目から音ノリになるのでリズムを見失わないように。[B]からのシンセ・ソロは変拍子の上に乗って、しかも歌わなければならないので難易度はCクラスと言えましょう。譜面の変拍子を恐れず、トライしてみてください。コピーする価値は絶対にある、すばらしい曲だと思いますから。

BILL & DAVE STORY

ブラッフォードのサウンドの核である、ビル・ブラッフォードとディ・スチュワート。この2人のバンド歴に軽く触れてみよう。2人はほぼ同時期にプロとして活動を始めた。ビルが'67年にブルース・バンドのサヴォイ・ブラウンに加入、ディが'68年に「エッグ」というグループを結成した。その後、ビルはイエスキング・クリムゾン-WWB-UKと遍歴を重ね、一方のディは、ハットフィールド&ザ・ノース・ナショナル・ヘルズというバンドを経て自身のキーボード・ワークを確立。

UKから脱退したビルとアラン・ホールズワースが、よりプログレッシブなアプローチを求めて、ディ・スチュワート、ジェフ・バーリンを加え、究極のバンド、ブラッフォードを結成。しかし、その活動はキング・クリムゾンが、再活動を始めたことで停止状態となる。現在はビルはセッションを中心に活躍、ディはバーバラ・ガスキンと結成した「スチュワート&ガスキン」で活動中。

VOICE DATA

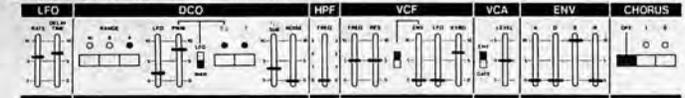
データ作成・解説: 松崎雄一

Hell's strings for DX7

ALGORITHM : 17		TRANSPOSE : 0 3		F.B.LEVEL : 7		OSC KEY SYNC : OFF																
PITCH ENVELOPE				LFO																		
PRI	PR2	PR3	PL1	PL2	PL3	PL4																
99	99	99	50	50	50	50																
OSC				WAVE																		
99	99	99	50	50	50	50																
ENVELOPE				KBD SCALE																		
#	ALG	M	FREQ	D	R1	R2	R3	R4	L1	L2	L3	L4	LD	LC	BP	RD	RC	R	S	V	M	OL
6	5	R	5.00	-3	61	64	32	29	70	89	90	0	0	-	-	-	-	6	2	0	93	
5	1	R	2.00	-7	91	88	38	26	99	94	93	0	0	-	C3	39	-L	3	2	0	70	
4	3	R	1.00	+1	96	50	32	30	91	94	95	0	0	-	-	-	-	2	2	0	89	
3	1	R	1.00	-1	89	45	35	26	94	97	99	0	0	-	F3	29	-L	2	2	0	75	
-2	1	R	0.99	+1	72	81	15	38	82	95	93	0	0	-	-	-	-	1	1	0	82	
1	C	F	2.512	0	62	30	25	50	94	98	97	0	0	-	-	-	-	2	2	0	99	

◀イントロのリフ部分のストリングス風の音。アタックが割と強いの立ち上がりは早めに設定する。キャリアはフィクスにして音に広がりを与える。ストリングス風のフォルマントを出すため、OP5・6のFREQUENCYをそれぞれ2.00、5.00にするのもポイント。広がり加える工夫も重要。

Hyu-Hyu SOUND for Juno-106



◀まず、VCFのカット・オフ・ポイントの設定値がカギ。次いで波形をオシレーターにアサインし、PWMをMANでかけ、倍音を強調するのもポイント。ノイズはカットしても構わない。

THE VINTAGE SCORE HELL'S BELLS BRUFORD

♩ = 100

Voice

Synth. 1

Piano

Synth. bass

Bass

Drums

A x4

B

C

D x4

E

F **G**

H **I**

1. 2. 3. 4.

4x only

J

THE VINTAGE SCORE HELL'S BELLS BRUFORD

K Voice 3, 4x only

1. 2. 3. 4.

(a) $2 \times$ $3 \times$

L

1. 2.

M Guitar

1. 2.

First system of musical notation, featuring a treble clef staff with a melodic line containing triplets and a 4:3 ratio, and a grand staff (piano) with bass clef accompaniment. A section marked 'N' is indicated by a dashed line.

Second system of musical notation, featuring a treble clef staff with a melodic line and a grand staff (piano) with bass clef accompaniment. The piano part includes a rhythmic pattern of eighth notes marked with 'x'.

Third system of musical notation, featuring a treble clef staff with a melodic line containing triplets and a 3:2 ratio, and a grand staff (piano) with bass clef accompaniment. The piano part includes a rhythmic pattern of eighth notes marked with 'x'.

THE VINTAGE SCORE HELL'S BELLS BRUFORD

①

Musical score for the first system of "Hell's Bells" by Bruford. The score is in 4/4 time and features a vocal line and piano accompaniment. The key signature has one sharp (F#). The piano part includes a drum set part in the bottom staff.

Musical score for the second system of "Hell's Bells" by Bruford. The score continues the vocal and piano accompaniment from the first system.

Musical score for the third system of "Hell's Bells" by Bruford. The score concludes the piece with a key signature change to three sharps (F#, C#, G#).

THE VINTAGE SCORE HELL'S BELLS BRUFORD

[P] (Guitar) **Synth.2 Solo**

(Synth.1)

♣ Col [C] ~

Drums

♣ Col [D] ~

♣ Col [E] ~

♣ Col [F] ~

♣ Col [G] ~

bend

♣ Col [H] ~

♣ Col [I] ~

♣ Col [J] ~

Repeat & F.O.

中古名
展示処分 **セール**
(各、1台から5台)

YAMAHA

- DX7IID..... ■TX7 他台有.....
-¥168,000 ¥58,000
- QX1..... ¥139,000 ■MDF1..... ¥23,800
- FD-03..... ¥39,800 ■RX17..... ¥39,800
- RX5..... ¥128,000 ■PSR6300 ¥152,800
- KX76..... ¥129,800 ■REX50..... ¥42,000
(専用ハードケース付)
- MJC-8..... ¥30,000 ■MEP-4..... ¥38,000
- DMP-7 ¥360,000 ■PD2500 ¥169,000

AKAI

- S700..... ¥98,000

名古屋・大須
MUSIC LAND



10/30(日)まで

KORG

- DS-8 ¥70,000 ■DSS1 ¥230,000
- 707 特別価格 (サウンドライブラリー30枚付)
- ¥49,800 ■DRV2000 ¥59,800

Roland

- キーボードアンプ..... ¥15,000
- CK-40..... ¥15,000

BOSS

- DRP I, II, III 各 ¥9,800

TASCAM

- PORTA05 特別価格 ¥49,800 ■PORTA TWO 特別価格 ¥74,800

その他

- ギター
- キーボードアンプ(20W)..... ¥5,000
- シールド..... ¥480
- MIDIケーブル..... ¥600
- 3段キーボードスタンド..... ¥17,000
- *その他、中古、展示品多数有り!!



名古屋市中区大須4丁目10番92号 ☎052(261)6684 営業時間 / AM10:00 - PM8:00
AM10:00 - PM10:00 (スタジオ)

八千代楽器